

会議録

会議の名称	西東京市公民館運営審議会平成20年度第12回定例会会議記録
開催日時	平成21年3月25日（水曜日） 18時35分から20時46分まで
開催場所	田無公民館 第2学習室
出席者	会長：武田雅子 副会長：森忠 委員：土田伸行、古賀節子、野間春二、加藤真理、萩原建次郎、上田幸夫 職員：相原館長、山本分館長、小笠原分館長、玉木分館長、小林分館長、近藤主査
欠席者	細井邦夫、西嶋剛昭、藤田律、江原ひろみ、伊波真貴子、石橋いずみ
議題	(1) 第11回定例会の記録について (2) 報告事項 1. 行政報告 2. 事業計画書・報告書について 3. 公民館だより編集室報告 4. 都公連委員部会運営委員会報告 5. 利用者懇談会報告 (3) 協議事項 1. 2009年度西東京市公民館事業計画（案） (4) 事務連絡及び情報交換 (5) 次回の日程について
会議資料の名称	(1) 事業計画書（21年度事業） 1. ライター入門講座（柳沢） 2. 田無公民館まつり「歌声コーナー」（田無） 3. 乳幼児を育てている人対象講座「子育てを楽しもう」（田無） 4. 女性問題講座 50～60歳代の女性へ「私流いきいきセカンドライフ」夫婦向き合いの極意を探る（田無） 5. 環境講座「廃油キャンドルをつくろう」（田無） 6. からだにやさしいハーブ講座（芝久保） 7. 子供対象事業 谷っ戸子やってみ隊（谷戸） 8. 乳幼児を育てている女性のための講座「感性豊かに・さわやかママスタイル」（谷戸） 9. 第21回谷戸まつり「語りによる宮沢賢治の世界」「フラダンス」（谷戸） 10. 書道講座「和のよさ、手づくりの素晴らしさ」（ひばり） 11. ココロ・カラダ・地球にやさしい21世紀の暮らしを考える いきいき口ハス講座（ひばり） (2) 事業報告書 1. あのワハハ先生と語ろう！トークタイム講座（保谷） 2. 春のふるしきレッスン（保谷） 3. カレッジ広場（田無） 4. 現代社会の子育てビジョン（田無） 5. 若い人のためのコミュニケーション講座（田無） 6. 囲碁講座「入門コース 初歩の初歩」（芝久保） 7. 古典文学講座・老子を読む（芝久保） 8. 朗読講座「美しい日本語を届けるために」（ひばり） 9. セカンドライフ講座「あなたの人生設計は決まりましたか」（ひばり）
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	

(1) 第11回定例会の記録について

会長：

記録の修正についての申し出等を確認する。

職員：

特になし。

会長：

配付の記録のとおりとする。

(2) 報告事項

1. 行政報告

会長：

報告を受ける。

館長：

3月定例会市議会もほぼ終盤を迎え、新年度予算も可決の予定である。公民館関係として大きな点は、第1に施設名称の変更、第2に芝久保公民館の空調改修、第3に谷戸出張所跡施設改修だ。

保谷公民館の施設名称に関する条例の一部改正については、3月11日の文教厚生委員会において全員賛成で可決し、4月1日施行で「柳沢公民館」に改称される。芝久保と谷戸の工事関係の予算は、本日の予算特別委員会で可決している。

芝久保公民館は6月10日から30日までを全館臨時休館にして工事を行い、7月1日にオープン予定だ。3月29日開催の市教委で臨時休館についての報告を行う。谷戸公民館は「創作室」として整備したいと思う。工期は5月13日から7月31日で、休館は伴わない。8月1日から供用開始とする。既に両施設の利用者懇談会には報告済みである。また、館内掲示や公共施設予約システムにテロップを流して周知している。

職員定数の削減に伴い、保谷駅前公民館の定数を1人減らし、2人の嘱託員の配置を決めた。先日職員の採用面接を行い、2人の公民館専門員を決めている。

会長：

質疑を受ける。

終結する。

2. 事業計画書・報告書について

会長：

質疑を受ける。

委員：

保谷公のトークタイムの参加者層はどうだったのか。田無公の報告の子育てビジョン、計画の乳幼児講座の参加者を女性に限定した意味は、同じく50～60代の女性対象の講座は現代の世相に合っていると思うが、女性の生き方を考えるときには1人の女性として考えるべきであり、必ずしも夫婦関係から考えるものでもないと思う。最後に田無公のキャンドルナイトについて詳細を報告してほしい。

職員：

トークタイムは企画提案のときにも報告したが、タイトルから想像されると「子育て世代」を対象にしたように感じられると思うが、このことを1つのテーマとして広い年齢層の市民が話し合うきっかけを作ることが目的で、実際に各年齢層の市民が参加していた。

職員：

募集時には市内在住の市民という文言で呼びかけている。

キャンドルナイトについては、あめんぼ青年教室の事業として行うということが1つの目的であり、ただしこの回のみは一般市民も誰でも参加できるようにしたい。

職員：

子育てを女性だけのものとして考えるべきでないという趣旨はよく理解しているし、学習の中でもそのことに触れているが、現実の問題として平日の午前中に応募をする事業の中でどれだけの男性が集まるのか、と考えると、担当としては対象を絞って講座運営を考えざるを得ない。しかし、男性から参加希望の声が掛ければ、担当としてもその声を取り入れる努力はすると思う。

委員：

田無公の「若い人のためのコミュニケーション講座」とひばり公の「セカンドライフ講座」には共通した点があると思う。担当者は内容は大変よいのに参加者が少なく残念なことだが、広報を担当する立場から言うと、PRの手段に問題があったのではないかと考える。

現在、私がボランティア登録している施設の運営主体が『指定管理者制度』を導入することになった。役所が管理していたときには人が集まるかどうかは余り意識していなかったと思うが、指定管理者はそのあたりをきちんと見極めた運営をする。そうしないと経営ができなくなるからで、努力をする。その努力を目の当たりにした利用者が、「指定管理者の方が良いのではないか」といったつけ込まれ方をしてしまうことになりやしないかが心配になる。

同じ講座を行うにしても、募集の仕方を工夫していかにも人を多く集めるかを考えないと、お役所仕事であると言われかねないと思う。役所が行うメリットとして、少人数でも行う必要のある講座を開催できる点であることは理解しているが、努力は必要だと思う。

委員：

長期間にわたる講座であれば、途中から参加者を追加するという事も可能なのではないかと。人数が少ないときには対応してはどうか。

委員：

田無公の若い人のためのコミュニケーション講座に参加してみた。最も参加人数の少ない日に参加したが、大変楽しい思いをするとともに、やはりもったいない気持ちになった。やはり地道な努力が必要だろうと思う。今までになかった発想の講座であるのだから、そういう時にこそ、たくさんの人の努力の輪が必要だ。講座を育てるのも私たちの勤めでもあると思う。例えば、知り合いにPRするとか、委員としても支援が必要なき時もあろう。

職員：

今月実施の「情報発信ゼミ」は、ここ5年間の実績は人数的に見るべきものはなかったし、常に人集めで苦労が絶えなかった。ついに今夏の実施時には応募者が2人になり、中止に追いやられたが、一念発起今春にタイトルを変えて募集をかけたところ、10人の定員は初日で満員になり、次回にしてほしいという断りを入れるという経験をした。

これは偶然なのか、必然なのかは今後検証の必要はあるが、人をひきつけるタイトルということはあると思う。ただし、内容の良いものであることは必然だろうが。

保谷公は1年とおして学習する講座が幾つかあるが、1つのテーマに絞って作り上げていく形式ばかりなので、途中からの講座参加は入る人も認める側もストレスになってしまうと思う。ただし、1回完結型を長期に行う講座であれば、中途参加も可能かもしれない。ケースによると思う。

委員：

仲間作りが目的の講座はそのとおりだと思うが、講座内容が良いものや成果の上がっている講座に

については、経過について報告しても良いのではないか。そのことが、次への参加にもつながると思う。

委員：

担当者の苦勞はよく理解しているつもりだが、参加者が少ないものであればあるほど、努力のしようがあるのではないか。次から次へと企画を出せばよいということではないと思う。

委員：

若い世代は、コミュニケーション能力の欠如について自覚しているのか、このことに対するニーズは高いはずであるし、企業の求人でもそのことを求められるケースが多く、セミナー等も活発に行われているのが実態。

しかし、公民館のような場での講座で能力向上と簡単にうたってしまうと敷居が高くなるのかもしれない。何にせよ、結果として高まったというものにすればよい。彼らが興味を持てる共同作業をテーマにしたらもっと多くの人が集まると思う。直接的なタイトルだと、人とのコミュニケーションが苦手な人には参加しにくいのかもしれない。

委員：

計画提出段階でも議論になっていたが、このままのタイトルで公民館だよりに掲載されてしまった。例えば、「話してみようよ」とか「友達いる？」みたいなタイトルだったらどうだったのか。『講座』だと勉強会をイメージされてしまうだろうし、若い人にも興味を持ってもらえる工夫が必要だったということ。今後はやわらかい発想で臨んでほしい。

別件だが、子供を預けて講座に参加するという人が多い。子育てというテーマになると参加者は母親で父はお留守番という構図を公民館が解き放つような内容の講座を企画してほしい。

委員：

田無公のキャンドルナイトの募集人員の「概ね20人」は曖昧だと思う。

職員：

だより掲載時には注意させたい。

委員：

谷戸公の「乳幼児講座」とひばりの「書道講座」の各定員は適切なものか。

職員：

乳児講座の定員は、保育室の定員に合わせたものだ。

職員：

書道の定員だが、部屋のキャパシティーによる。また、講師も1人であり、添削をできる上限であるが、毎回応募が多く、その点は恐縮している。

会長：

質疑を終結する。

3. 公民館だより編集室報告

会長：

報告を受ける。

委員：

最近、編集会議で話題にしているのは各講座の応募状況についてだ。3月号に掲載の講座は、そのほとんどが掲載日が2日目には定員に達したようだ。掲載方法を含めて記事の内容の充実が課題になると思う。

21年度の紙面だが、概ね変更はない模様だが、新しい委員も加わるので意見を取り入れてほしい。公運審コラムは、当面続行となっている。委員として、今一番言いたいことを投稿してほしい。それと、間もなく100号になるので、その記念事業を考えなければならない。

21年度事業だが、田無の公民館だよりの縮刷版を発行することになった。

委員：

公運審委員のコラムだが、掲載内容の反応はどうか。今後の掲載継続についても含めて確認したい。

委員：

実は、読者の反応をつかむシステムが存在しないので、よくわからないのが現実だ。最近、ようやくそうしたことへの対応が必要であるという方向性が話し合われるようになった程度だ。例えば、近日開催のライター講座に参加された受講者をモニター登録するというところもあると思う。または、公民館利用者からモニター希望者を公募したらどうかという意見などは出ているが、まとまっていない。

委員：

私の書いたコラムに対しては、大変話題になったことを記憶しているが、そもそもこのコーナーはなくても良いという程度のものなのか。

委員：

利用者に対しての指針になればということだと思うが、ここで判断すべきことではない。

委員：

公民館だよりに委員のコラムを入れているというのは、全国的にも多分珍しいことだと思う。ただ、自分に関心のあるテーマでコラムを書くということだけならば、誰でも良いということになってしまう。公運審の様子や内容を書くべきなのではないか。

委員：

今回のコラムの目的は、より私たちの存在を理解してもらいたいということだったはずだ。

委員：

それならますます会議の様子を伝えるべきなのではないか。

委員：

コラムの前の企画は、講座に参加した感想やら意見を述べるコーナーであったが、その後の提案で公民館に関わる内容で意見を書くコーナーに変わったと思う。

委員：

このコーナーの初代の企画が「公運審のつづやき」で、これでは余りに主張が弱いということで、ただいま紹介のあった講座紹介に変わり、そして現在の「コラム」ということで、委員としての問題意識を直接伝えようということになった。単なる利用者としての意見を、という趣旨のものではない。

委員：

良くわかった。公運審委員として、自覚を持って書きたい。

委員：

そもそも「つばやき」がスタートするきっかけも、私たち公運審の役割を利用者や市民に理解してもらおう、ひいては公民館を理解してほしいということだったと記憶している。うまくPRできたかどうかは筆の力にもよろうが、文面を通じて少しでも公民館の理解が深まればよいと願いたい。

委員：

「コラム」の名称には余りこだわらず、公運審で何を議論しているか、であったり、社会教育の場で問題に思うことや公民館が今置かれている立場について書いてもいいし、多様性があるといい。将来的には、もっと主張の強いものにしていくことも課題なのかもしれない。

会長：

大変狭い範囲の反応だが、友人からの反応はある。

委員：

2月号に各館の講座を紹介したが、あの記事のもっと内容を詳細にした内容の濃いものが掲載できないかと思う。これは、予算が伴うことなので将来的な希望にとどめてほしいが。

会長：

質疑を終結する。

4. 委員部会運営委員会報告

会長：

報告を求める。

委員：

本日が今年度最終会議であった。3月1日の研修会は47人の参加で、3回の研修会のうちで最大の出席者であった。21年度の定期総会は、4月15日に多摩市永山公民館で開催される。

21年度の委員部会の活動は、4月28日が初回で、稲城市中央公民館において行われる。

会長：

研修会参加者の感想を述べてほしい。

委員：

私の勉強不足の部分を補う意味で貴重な話だった。公民館は戦後60年続く長い制度であるが、今その姿が変化したり、なくなってしまう自治体も出てきている。こうした流れに市民として関わっていかねばならないと思うし、市民が関わることで、その姿を良いものに変化させる必要がある。変わらないことが良いことばかりでもない、しなやかに、したたかに関わるのが大切だということであったと思う。

委員：

今問題になっている指定管理者制度とどう向き合うことが大切か、という見方を教わった。公運審はもちろんのこと、利用者もそのことを真剣に考える必要があると思う。そうでないと、公民館が公民館でなくなるケースも出てくると感じた。今私たちにできることは、公運審として公民館の必要性について議論することが大切であり、そのことをどう市民に伝えるか、だろうと感じた。

会長：

来年度も研修会は開かれるので、ぜひ多くの委員に参加してほしい。質疑を終結する。

5. 利用者懇談会報告

会長：
報告を求める。

職員（田無公）：

3月14日に開催し、83団体、87人の参加。

公民館側からは、利用についてのお願事項、新年度の備品の購入について。年度変わりに伴うサークル代表者等の変更届の協力依頼、田無公民館まつりのPR、芝久保公・谷戸公の工事について、保谷公の名称変更について、新年度事業の説明などを行った。

参加者の主な意見は、財政講座を求めるもの、田無以外の警備員が窓口対応を行う館での接遇に関する意見、他に職員の接遇に対しても問題視する意見があった。館長から、市民対応について注意喚起を行うという説明をした。

職員（谷戸公）：

3月21日開催、36団体、36人参加。

団体連絡箱については、新規の団体の申し込みがあったが、辞退したところもあり何とか抽選にならずにすんだ。登録届の再提出に対する御礼、退室時の利用報告と備品を大切に使うしてほしいこと、谷戸出張所の跡施設だが、会議室の名称については「創作室」で了解を得られるものと考えている。芝久保の休館と保谷公の名称変更について周知した。

また、例年のことであるが、年間の施設利用事業を説明し、比較利用しやすい時間帯があることを説明し、可能な団体はそちらにシフトするよう話している。次に谷戸まつりをはじめとした、新年度の事業計画も報告した。

参加者からの意見だが、利用マナーの向上についての意見であるが、無断キャンセルについての意見が出された。また、互いに譲り合える関係を築きたいというもの、出張所の跡施設に関してもいくつか質問が出たが、現在分かっている範囲で回答した。

職員（芝久保公）：

3月12日に35団体、46人の参加。

挨拶の代わりに利用者懇談会とは何か、ということの説明をした。参加した団体間のふれあいの場であり、情報交換の場であること。館側の一方的なお知らせ会ではなく、利用者どうしの意見交流の場であり、公民館の原点であるということをお伝え、活発な意見交流をお願いした。

館側からは、2009年度の事業方針について報告、芝久保の主催講座の予定、公民館まつりのPR、登録届け変更事務の協力に対する御礼と年度切り替えに伴う代表等の変更時の届出依頼、新年度の修繕や備品購入の計画などを説明した。また、使用確認票の提出が定着ししたが、その効果として忘れ物が減ったことも付け加えた。

新年度の目玉である空調機の交換工事についてであるが、2週間の臨時休館を予定していることと、その間の近隣の公共施設の説明を行い、協力を依頼した。そのほかにも谷戸の増室と保谷公の名称変更についても知らせた。

参加者からの意見だが、空調工事期間中の近隣の公共施設の予約方法に関する件、特定の曜日に部屋の予約ができないのは、システムエラーがあるのではないかという意見が出た。部屋の有効利用に関しては、利用者連絡会や関係グループ間での話し合いの場を持つことを依頼した。

職員（ひばり公）：

3月17日に開催し、54団体、57人の参加。

館側からは、新年度の主催講座の説明として、2008年度から2009年度への年度替りに伴う主催事業の変更点について、これまでも春のコンサートは行ってきたが、この事業を地域交流事業に位置づ

け、実行委員会方式のコンサートとし、利用サークルの発表の場として提供する方向にリニューアルしたい。来年3月の実施予定だが、実行委員会は4月に入るとすぐに取り組み予定だ。新年度の公民館の事業方針に基づく目玉事業となる。

市民企画事業についてだが、これまでひばり公を会場にして行われる実績や利用団体の申請も少ないので、今回はこの事業のPRを大きく行った。

次に、施設の整備状況について主な改修点や購入予定の備品について説明した。さらには、保谷公の名称のことで谷戸の増室、芝久保の臨時休館について説明した。

参加者からの意見を求めたが、特に質疑はなかった。質疑がないということイコール悪いことではないと考えている、根拠としては、日常業務の中で職員が市民とコミュニケーションをとっていれば、利用者の意見は聞けるし、秋の懇談会で出た施設の改善提案や要望等についてもほとんどすべてを解決し、さらに今回も館側からの報告事項として説明しているの、出なかったのではと踏んでいる。

館長（駅前公）：

3月13日に開催し、44団体、49人参加。

分館長が不在であったため細かい説明はできなかったが、私が参加して利用者の意見を聞いた。駅ビルに作ったという特徴が出てきているのではないかと思うが、旧住吉公民館からの利用団体に加えて、新しいサークルが相当数増えてきている。連日新規登録を受けているのが現状だ。当然のこと、それに伴い部屋が取れないという意見が多く出ているようだ。利用時間帯をもっと細分化して空き時間をなくしてほしいという意見が出た。苦情としては、まずは職員と市民との関わりに関するもの。事務室が4階でカウンターも狭く、鍵を預かると5階へ移動するがそこでは当然職員と交われない、職員の顔も見えないし関係が薄れていること。次に、階下の西友で買ってきた弁当を4階のロビーや5階の団体活動室で食べる人が増えているようだ。もちろん、公民館利用者以外のことである。

委員：

住吉公がなくなり、立地条件が大きく変わった。施設がなくなったことに対する地域でのダメージや反応はあるのか。または、この影響で閉会したサークルはあるのか。

職員：

閉館に伴い、谷戸公に移動してきたサークルは結構多いのではないかと。団体連絡箱を増設したが、それも既にいっぱい状態だ。

委員：

なくなってしまった団体については、細かく捕捉しておいてほしい。

他市でのことであるが、ロビーで展示していた作品の盗難にあったという話を聞く、西東京ではどうか。

職員：

保谷公のロビーが最も利用率が高いが、盗難に関する報告は聞いていない。ただし、受付に置く芳名帳の管理については、目を離さないようにその都度注意している。

会長：

質疑を終結する。保谷公の報告は来月に行う。

午後8時5分休憩

午後8時10分再開

（3）協議事項

1. 2009年度西東京市公民館事業計画（案）

副会長：

説明を求める。

職員：

先月の意見に基づき、事業方針の修正を行った。机上に配付の訂正版の赤字部分を確認してほしい。

数多くの意見を得たが、すべてを取り入れるためには一定の時間が必要なことと、小手先の文章変更よりもこの1年間をかけて事業計画の掲載法や最も肝心な、この事業方針をどのように各館の個別事業に反映させるのかについては、職員の実務研修として継続することが良いと判断したため、最小のものになっている。

前文の「市民の交流」という趣旨がつかみきれないという意見に対しては、「公民館が市民の交流の場」として位置づけられるべき必要性について付加した。

重点事業には、「情報の収集と発信について」を先月の指摘により1項目追加した。利用者が情報を持ち帰るパンフレットコーナーやポスターの掲示場所が乱雑な館があり、それらを意識的に整備する。また、学習相談に対応可能な体制整備に向けた職員研修の実践、都公連主催の研修会はもちろん、日々の業務の中で多くの市民と接することが何よりの研修になると考える。館長を先頭に組みたい。

また、多くの委員から出た窓口対応と接遇についてだが、警備員には委託会社を通じて4月から新たな気持ちで臨むよう伝達した。肝心なことは、職員とか警備員という垣根なく、サービスの提供に努めることだが、委託できることとそうでないことがあるので、利用者に対して警備員が対応できる業務を掲示することや利用懇等でそのことを重点的に説明してはどうかと思う。

委員：

誤植が1点、文言修正が1点「ホームページを通じた」は語呂が良くないので考え直してほしい。

職員：

誤植修正は了解した。文言修正は、「ホームページによる」としたい。

委員：

職員が1年間かけて見直していくことが、説明でよく理解できた。ただし、駅前公民館の事業計画の変更については、納得いかない点が多い。年間計画をどのように捉えて立案したのかを改めて問うてみたい。今日は分館長不在なので、後日説明してほしい。

委員：

どの館も前年と比べてよい方向に変化してきていると感じる。この方向性が、具体的に実現できるよう希望する。

委員：

駅前公の件であるが、個別計画が結果として二転三転してしまった。まず計画を立てる前に、開館してから2月までの事業を総括し、それから立案するという手順でよかったのではないか。住吉公民館の事業もできないものも出ていただろうし、そのあたりを確認したい。

館長：

駅ビルに入り、施設管理に思った以上に時間を取られたのは事実だ。また、駅ビルに来る市民のニーズを捉える間もなかったこと、さらに、主催講座について職員の連携がうまくかみ合わなかったことなど重なってしまったと思う。

委員：

半年間の実績がありながら旧住吉の講座の移行作業のような操作で第1案が提出され、その後数の増減のみが行われたということか。いずれにしても、旧施設からの移行過程の中で、次年度の4月以降の計画を立てなければならなかったということだと思う。その上、職員間で摺り合わせる時間もなく提出されたものと推察する。

おかれた状況を勘案する必要もあるので、来月説明を求める意見は撤回し、要望にとどめたい。

館長：

今後は駅ビル内の施設であるという特質を生かしたい。

委員：

旧住吉公の良き伝統と駅前の特質を良く摺り合わせて事業化することを提案したい。

館長：

開館前に受理した公運審の答申を生かせるような工夫が足りなかったと反省している。

委員：

駅前のみ3つの案が出された。連続して見ていると、事業の名称を出したり、消したりしており、混乱が見えて取れる。今年度もスタートしてみたら、計画と異なることも多かったと思う。まだまだブレが生じる時期だと思っている。その点は理解しなければなるまい。

利用者だって、まだ公民館を使うという理解の度合いが深まっていないのではないか。皆さんが使いやすい方向に持っていく努力を重ねてほしい。

職員：

感謝したい。このことは、駅前公の職員に明日伝えたい。

委員：

利用者懇談会での意見だが、駅前公では窓口対応は警備員が行い、職員は事務室の奥にいて声をかけにくい状態との意見だ。何とか改善してほしい。

委員：

ステアビルの管理会社は、会社更生法を適用したのではないか、大丈夫か。

館長：

日本綜合地所と管理会社の日綜コミュニティーは別会社との説明を受けている、今のところは心配ないということだ。

委員：

ステアビルの管理についての意見は、公民館利用者の声を代弁できるのか。

館長：

ビルの管理部会が毎月開かれており、そこで言うことができる。

委員：

自転車置き場についてもまだまだ改善の余地が残っている。

委員：

3階から階段室に入れるようになったが、逆に西友から5階まで誰にも会わずに公民館フロアに行

くことが可能になった。警備の巡回等は大丈夫なのか。

館長：

その点で、警備は強化している。

副会長：

質疑を終結する。

本日出た修正案を加えて、提出された事業計画案に異議ないか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

それでは、そのように取り扱いたい。以上で終結する。

（４） 事務連絡及び情報交換

職員：

特になし。

（５） 次回の日程について

4月22日（水曜日） 18時30分 於：田無公民館 第二学習室

副会長：

他に意見がなければ、閉会とする。